

シンガポール便り

東京玉翠会シンガポール支部事務局
本田博之(昭和57年卒)

第34回東京玉翠会総会が、本年も例年どおり盛大に開催されますことを、昨年建国50周年を迎えたシンガポールからお祝い申し上げます。

一気に若返ったシンガポール支部

シンガポール支部は、何とこの1年の間に大いなる若返りをみせました。現在のメンバーは、最も若い人で平成21年卒から最も上の先輩で昭和45年卒と幅広い年代層にまたがっているだけでなく、人数も判明しているだけで10名まで増えました。メンバーも、元野球部のイケメンエースあり、元サッカー部の美人マネージャーあり、元硬式テニス部のヒロイン(…)あり、元陸上部の名(迷)スプリンターありなど、在学中に華々しい？ 経歴を有するだけでなく、来星してからお遍路に目覚めて四国八十八ヶ所を巡ったあげく、何故かうどんの修行に励み始めて将来開業を目指している者など、非常に個性豊かな面々が揃いました。昨年10月に開催された飲み会、もとい支部会も大変盛況でした(写真1)。因みに、最古参メンバーの一人の小松慎一先輩は、シンガポール香川県人会(総勢50名超!)の会長もお務めになっています。やはり若い人が入ってくると、会は盛り上がりますね。

知らなかったシンガポール

ここで、皆さんがあまりご存知ないと思われるシンガポールをご紹介します。

(1)フードコートに讃岐うどん？

写真2をご覧ください。えっ、ここは何処かって？ もちろんシンガポールですよ。しかも、日本で大ヒットしたドラマ『セカンドバージン』が

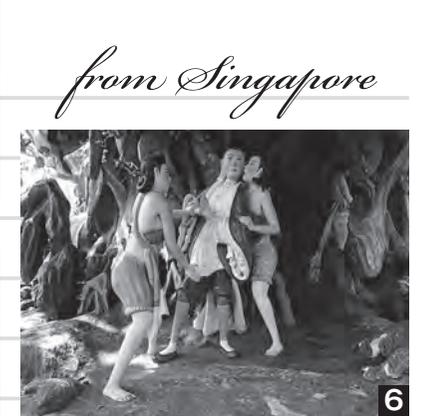
撮影された、『Lau Pa Sat』というシンガポールで最も有名なフードコートにあって、普通に食べられます。肝心の味はというと…え〜贅沢は申すまい。シンガポールの超一等地に堂々と出店していることで、これからアジアでも讃岐うどんがメジャーになっていく訳ですから。

(2)マレー鉄道の終着駅

写真3の威風堂々とした建物は、これはかつてマレー鉄道の終着駅として栄えた、鉄道ファン必見の旧タンジョン・パガー駅です(2011年に廃止)。1996年に放映されたTVドラマ『深夜特急』で、主人公の大沢たかお扮する沢木耕太郎が、この駅で切符を買ってマレー半島を北上する列車に乗り込むシーンが撮影されたのをご記憶のかたも多いと思います。シンガポール領内にあるこの駅構内では、先にマレーシアへの入国審査が行われた後に、マレーシア国境付近で今度はシンガポールの出国審査が行われるという珍現象が起きていました。パスポートにマレーシアの入国印はあるのにシンガポールの出国印が無いといったトラブルも多かったそうです。また当時から今でも線路や駅構内はマレー鉄道の所有であることから、その名残で敷地内は英語ではなくマレー語の表記しかありません。現在ではシンガポールの祝日に開放されていて、自由に見学可能です。

(3)シンガポールに温泉？

写真4は、センバーワンというマレーシアとの国境に近い地区にある、知る人ぞ知るシンガポール唯一の温泉です。ここは実は軍の基地の中にあり、写真5のとおり、一步金網の中に入れば迷彩服を着たお兄さんに銃で撃たれても文句は言えないといふかなり痺れる場所にあります。



ここで沸いて出てくる湯はメチャクチャ熱くて、何度もふたつのバケツに入れ替えながら冷まないと、とてもじゃないが浸かれたもんじゃありません。我々は足湯が精一杯でしたが、現地の人はドラム缶に汲んできて服を着たまま平気で浸かっていました(女性も)。ついでに言えば、地面やら金網やらそこかしこに洗濯した服や下着が干してあって、殆ど生活空間と化していました。恐るべし、シンガポール人…。

(4)天国か地獄か？

シンガポールにタイガーバーム・ガーデン(別名Haw Par Villaとも呼ばれる庭園)があるのをご存知でしょうか？ 中国の儒教・道教・仏教や様々な伝説・説話等をモチーフとした多数の奇妙な像は、極彩色かつグロテスクな造形をしている上に、園内のジオラマは地獄や極楽の様子を表したものもあり、そのキッチュな景観に思わずうっとり…。写真6は三蔵法師がハニートラップを仕掛けられる場面ですが、私もここで『西遊記』のストーリーを学びました。シンガポール観光の一押し！ですね。人生勉強になること間違いありません。入場無料です。

(5)全身血まみれ、痛そ〜

『タイプーサム』という10月に行われるヒンドゥー教のお祭りがあります。神に願いをかなえられた人が、自分の体を傷つける苦行を行いながら感謝の心と信仰心を示す行事です。体中に植物と牛の糞を混ぜた「聖なる灰」を塗り、カバディと呼ばれる孔雀の羽で美しく飾られた大きな飾りを担いで(写真7)、全身に針を刺して(!)寺院まで行進します。ミルクが入った壺を頭にのせたり、針で体に台車を引っ掛けて引っ張ったり(!)する人もいます。全身血まみれになっている人もいて、見ているだけで痛くなりますが、血が好きなのはゾクゾクすること間違いなし(?)です。さすがに男性しかやりませんが、女性は周りで掛け声(多分頑張れと言っている)をかけて応援しながら一緒に行進します。

狭いシンガポール、意外と見どころは沢山ありますが、是非一度お越し頂ければ、シンガポール支部のメンバーで皆様を温かくお迎えします。また、在星のOB・OGをご存知でしたら、是非メンバーに入って頂きたいと思いますので、ご連絡宜しくお願ひします。